

環境会計

荒川化学グループでは、総合的効果対比型環境会計をツールとして、環境にかかるコスト、効果、物量を把握、管理しています。

2012年度実績集計結果

(1)2012年度の環境保全コストの投資額は1億28百万円で、2011年度より減少しました。これは2011年度の新プラント建設が一段落したためです。主な環境投資としては、大阪工場で太陽光発電設置と廃棄物焼却炉の修理、水島工場で悪臭物質除去設備の設置、富士工場で脱臭設備の更新、徳島工場で高効率化ボイラへ更新、釧路工場・鶴崎工場で攪拌機のイン

バータ化などがありました。

(2)環境保全コストの費用は11億93百万円で若干、増加しました。

(3)環境保全効果は、環境保全活動(P14~P16)の項目に掲載しています。

(4)経済効果は、廃棄物リサイクルによる収入額は増加しましたが、廃棄物および省エネルギーによる費用は増加しました。

■環境保全コスト

(単位：百万円)

分類	主な取り組みの内容	2010年度		2011年度		2012年度		関連頁
		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額	
事業エリア内コスト		131	597	388	627	128	670	
①公害防止コスト	公害防止設備の導入・維持管理	106	279	351	306	102	337	P.15
②地球環境保全コスト	省エネ型設備・機器の導入	19	67	12	51	26	55	P.14
③資源循環コスト	廃棄物減量化・リサイクル、外部委託処理	6	251	25	270	0	278	P.16
上下流コスト	包装容器のリサイクル	0	125	0	109	0	115	—
管理活動コスト	環境マネジメントシステムの維持	6	45	0	47	0	55	P.10
研究開発コスト	環境配慮型製品の研究開発	0	332	0	323	0	335	P.13
社会活動コスト	地域における環境保全活動	16	23	0	15	0	15	P.26
環境損傷コスト	大気汚染負荷量賦課金	0	5	0	3	0	3	—
合計		153	1,127	388	1,124	128	1,193	—

(単位：百万円)

	2011年度	2012年度
投資額の総額	1,478	862
研究開発費の総額	2,869	2,790

■環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)

(単位：百万円)

効果の内容	金額		
	2010年度	2011年度	2012年度
廃棄物のリサイクルによる事業収入	45.7	41.1	55.4
省エネルギーによるエネルギー費の削減	-13.5	118.5	-39.3
省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	25.0	-0.6	-26.6
合計	57.2	159.0	-10.5

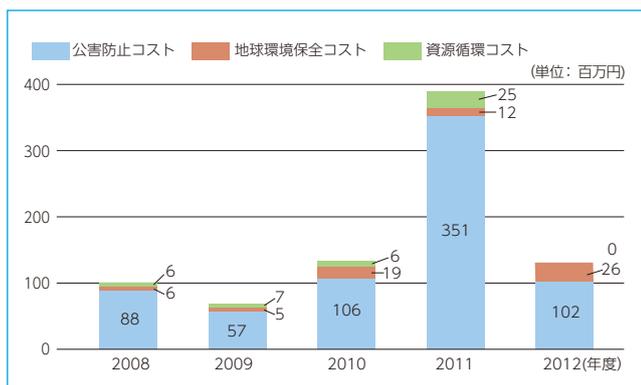
環境保全の効果

環境保全の効果(物量効果)は、環境保全活動(P14-16)のページに記載しています。

集計について

- 集計期間：2012年4月1日から2013年3月31日まで
- 集計範囲：荒川化学工業株式会社、ペルノックス株式会社、高圧化学工業株式会社
- 集計参考：環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
- 集計の考え方
 - ・減価償却費は財務会計上の金額。
 - ・投資金額は集計期間の検収ベース金額。
 - ・環境保全活動以外の内容を含んでいる投資・費用は、環境保全に関わる割合を適切に按分して算出。
 - ・研究開発コストは、個々の研究テーマ毎に環境保全係数を決め、環境配慮型製品の研究開発に費やした研究開発時間をベースに算出。
 - ・効果は物量および金額で集計しました。「みなし効果」「偶発的効果」は算定していません。

■事業エリア内コスト(投資)の推移



■事業エリア内コスト(費用)の推移

